

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
教養科目群							人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。
	歴史と文化		○				・人文科学分野（歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など）を中心に学ぶ。 ・人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 ・様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。
	人間と生命		○				・人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 ・生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根源的な問題を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 ・人文科学分野（哲学、倫理学など）、行動科学分野（心理学、教育学など）、生命科学分野（生物学、生命科学など）を含む統合的な分野を学ぶ。
	生活と社会		○				・社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 ・社会科学分野（法学、政治学、経済学、経営学、社会学など）を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。
	自然と技術		○				・自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 ・技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 ・自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。
	ウェルネス総合演習				○		・健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、考える。
創成科学科目群							現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。
	グローバル科目		○				・異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。
	イノベーション科目		○				・さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。
	地域科学科目		○				・地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。
	医療基盤科目		◎	○	◎	◎	・横断的な医療分野の基盤教育と汎用的技能を学ぶ。 ・専門領域における社会的意義を理解し、チーム医療、健康社会づくり等のスキルの獲得を目指す。
	口腔と健康		◎		○	○	1) 歯科医学・歯科医療とは何か、2) 診療各科の現状と将来展望等について臨床各研究室(部)教授等により教授する。歯科医学・歯科医療を、「人間学」として広い視野で、疾病医療と保健医療の両面からとらえることができるようになることを目標とする。
基礎科目群							大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。
	SIH道場		○	◎			・専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。
	高大接続科目		○				・高校レベルの数学、物理学・化学・生物学を勉強しながら、身のまわりの出来事を理解し、さらには基礎数学、基礎物理学・基礎化学・基礎生物学への繋がりを学ぶ。
	基礎数学、基礎物理学、基礎物理学実験、基礎化学、基礎化学実験、基礎生物学、基礎生物学実験		○				・専門分野での学びに不可欠な基礎学力を身につける。 ・基礎知識の習得を目指した講義と、知識と実践の連携を目指す実験・実習を通して学ぶ。
	情報科学		○				・情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 ・数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。
外国語科目群							英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。
	英語	○	○	◎			・基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 ・基盤英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 ・主題別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基盤英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 ・発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。
	初修外国語	○	○				・英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
骨学		○	◎			○	解剖学では、口腔領域のみならず人体全身について、歯科医師として、全人的医療に対応しうる肉眼解剖学の知識を修得させることが目標である。ここでは、系統解剖学の講義のうち、骨学の講義を骨標本を用い行い、解剖学の知識を習得させる。
筋学・循環器学・末梢神経学		○	◎			○	解剖学では、口腔領域のみならず人体全身について、歯科医師として、全人的医療に対応しうる肉眼解剖学の知識を修得させることが目標である。ここでは、系統解剖学の講義のうち、筋学・循環器学・末梢神経学の講義を行い、解剖学の知識を習得させる。
中枢神経学		○	◎			○	解剖学では、口腔領域のみならず人体全身について、歯科医師として、全人的医療に対応しうる肉眼解剖学の知識を修得させることが目標である。ここでは、系統解剖学の講義のうち、中枢神経学の講義を脳と脊髄の実習を含めて行い、解剖学の知識を習得させる。
口腔の局所解剖学・内臓学・発生学		○	◎			○	歯科医師に必要な口腔顎顔面領域と前頭部について、系統の異なる解剖構造の三次元構築を体表から部位毎に学ぶ局所解剖学の講義を行い、歯科臨床手技の解剖学的ヒデンスが理解できるようにする。また、内臓学の講義を行うことで、系統解剖学の講義を完結する。さらにはヒトの発生学についても学び、発生異常についても理解を深める。
肉眼解剖実習		○	◎	○	◎	◎	無償で献体されたご遺体を用いて、全身の人体解剖を局所解剖学的に行うことで、産学で得た系統別の解剖知識を局所解剖学的なものに置き換えさせ、人体の解剖構造を全人的に理解させるとともに、献体の意義を体得させる。
全身組織学		○	◎	◎	○	◎	人体の構造は様々な細胞が集まって組織ができ、組織が組み合わさって器官ができあがり、さらに器官が集まって成立する。このような細胞、組織および器官の形態と機能を理解する。テクニカルタームは英語を用い、グローバル化に対応するよう心掛けている。
歯の解剖学		○	◎	◎	○	◎	ヒトの歯のひとつひとつの形態、異常、植立方向などの特徴を知り、それぞれの歯を識別する能力を養い、その相互作用を理解する。テクニカルタームは英語を用い、グローバル化に対応するよう心掛けている。
口腔組織学・発生学		○	◎	◎	○	◎	全身組織学で学習した組織学についての知識を基盤にし、歯と口腔及びその周辺組織の正常な構造を顕微鏡レベルで理解し、それに関連する発生学を学ぶ。テクニカルタームは英語を用いる。
全身組織学実習		○	◎	○	◎	◎	講義で習得した知識を基盤として、人体を構成する正常な器官の組織標本を実際に自分の目で観察し、器官の組織学的な特徴を理解する。
歯の解剖学実習		○	◎	○	◎	◎	歯牙解剖学講義で学んだ歯の特徴を基にして、彫刻刀を用い、石膏棒から歯の形を仕上げることにより、各歯牙の形態を理解する。
口腔組織学実習		○	◎	○	◎	◎	講義で習得した知識を基盤として、顎・口腔領域の正常な組織標本を実際に自分の目で観察し、組織構造の理解をいっそう深める。
基礎生理学		○	◎	○	○	◎	神経系における情報処理の基礎的メカニズムおよび神経の興奮から筋収縮に至る一連のメカニズムを理解する。生体の恒常性に関わる内分泌系、自律神経系の働きを学び、恒常性の異常をもたらす疾患についても理解を深める。
統合生理・口腔生理学		○	◎	○	○	◎	血液循環、呼吸、消化吸収、排泄、感覚と運動、高次脳機能など人体の各臓器・組織の統合的な働きについて理解する。また、口腔生理学として顎・口腔領域の感覚と運動および唾液分泌の調節機構について学習・理解する。
生理学・口腔生理学実習		○	◎	○	○	◎	人体の生理機能を、実際に自分の目で確かめ、測定し、その手技を習得する。さらに計測結果(数値)を統計処理などにより整理し、正しく図表に現す。得られた結果の生理学的意義について理解する。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

ディプロマ・ポリシー 科目名	主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
		患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
一般生化学	○	◎	○	◎	◎	生体の営みを分子のレベルで理解するために、 ①生体を構成する4大構成成分(タンパク質、脂質、糖質、核酸)の構造と機能 ②生命維持活動に必要なエネルギー代謝について学習する。
分子生物学	○	◎	○	◎	◎	生体の営みを分子のレベルで理解するために、 ①遺伝情報及びその流れ ②遺伝子発現調節機構 ③分子生物学の手法について学習する。
口腔生化学1	○	◎	○	◎	◎	生体の営みを分子のレベルで理解するために、「生化学A・B」で学習したことを基礎にして、 ①高次生体構造とその機能 ②人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組み及びそれに伴う変化や異常による病態 ③口腔内構造物の発生・分化・機能について学習する。
口腔生化学2	○	◎	○	◎	◎	「生化学A・B」「口腔生化学1」で学習したことを基礎にして、 ①歯科臨床の基礎となる歯科疾患の発症メカニズム ②炎症と生体防御機構、再生のメカニズムと治療への応用について学習する。
生化学・薬理学実習1	○	◎	○	◎	◎	生化学講義で履修した内容を、実際に自分の目で確かめ、より理解を深めることを目的として生体成分の分離、定量や遺伝子操作の手法を習得する。さらに疾患モデル動物を用いて、その病因・病態を分子レベルで理解し、臨床生化学の基礎を確立する。
病理学	○	○	○	◎	○	疾患の成立をトータルな生命現象として総論的に理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。
口腔病理学	○	○	○	◎	○	顎口腔領域の様々な疾患の成立をトータルな生命現象として理解することを目的として、臓器・組織・細胞・物質レベルで学習する。
病理学実習	○	○	○	◎	○	人体の病的変化を肉眼観察と顕微鏡観察を通して臓器・組織・細胞レベルで理解する。
微生物学総論	○	◎	○	◎	◎	病原微生物(細菌、真菌、原虫、ウイルス)の構造、増殖、生理、病原性について学び、それらをもとに診断法、治療法、予防法に関する基本的な理論を学ぶ。
免疫学	○	◎	○	◎	◎	微生物の感染に抗する生体防御の仕組みを学び、アレルギー、自己免疫疾患、ワクチンの理解も共に深める。
病原微生物学各論	○	◎	○	◎	◎	微生物の種類と特性、さらに、全身の感染症の病態や治療法に関して詳しく学ぶ。また、感染予防策や抗菌薬の適正使用に関する詳細を学ぶ。
口腔の感染症	○	◎	○	◎	◎	口腔領域の感染症の病態、原因となる微生物について詳しく学ぶ。その理解により、う蝕、歯周病およびその他の感染症の基礎的な知識、理論を身につける。
病原微生物学実習	○	◎	○	◎	◎	微生物の観察、分離、培養をはじめ、抗菌薬への感受性試験、微生物の生化学的・分子生物学的的手法による同定方法などを習熟する。病原微生物学の講義で学んだ微生物学、免疫学を実際に体験することによって、理解を深める。
薬理学総論	○	◎	○	○	◎	薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、薬物と生体の相互作用の結果おこる現象や作用機序について、個体レベル、細胞レベルおよび分子レベルで学習する。
薬理学各論1	○	◎	○	○	◎	全身疾患に用いられる薬物の薬理作用、作用機序および副作用を理解し、疾患に対する薬物療法を学ぶ。
薬理学各論2	○	◎	○	○	◎	全身疾患に用いられる薬物の薬理作用、作用機序および副作用を理解し、疾患に対する薬物療法を学ぶ。
歯科薬理学	○	◎	○	○	◎	歯科で用いる薬物の薬理作用、作用機序および副作用を理解し、疾患の治療や予防に適する薬物を選択する能力を身につける。
生化学・薬理学実習2	○	◎	○	○	◎	講義で学んだ薬物を、実際に動物あるいは抽出臓器に作用させ、その効果を観察することにより、生体の機能と薬理作用の関係を具体的にかつ総合的に把握する。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
歯科材料科学		○	◎		○	◎	歯科材料の基本的性質を物質科学と材料工学の観点から理解する。
歯科理工学		○	◎		○	◎	歯科材料に要求される物性と所要性質を理解し、歯科で用いられる材料の適切な成形・加工法を理解する。具体的には材料の一般的性質、評価法、金属・ポリマー・セラミックスの特性と成形法、材料の微細構造の制御とそれともなう特性の変化について学習する。
歯科理工学実習		○	○	◎	○	◎	材料の微細構造と特性の相関に関する理解と、材料の用途に応じた所要性質の理解を基に、成形法による材料の微細構造の変化とそれによる性質、形状などの変化を実験的に確認し、用途に応じた最適な成形法についての理解を深める。
衛生公衆衛生学		○	◎	○		○	個人と集団の両者を対象として、健康の保持・増進と疾病の予防の実現を図る衛生学の全体像を理解することにより、歯科医師法第1条で定められた「歯科医師の任務」である歯科医療と保健指導の実践による公衆衛生の向上・増進への寄与を遂行するための、必須の素養を身に付ける。
予防歯科学総論		○	◎	○		○	歯科基礎医学の各科目の知識に基づき、口腔の健康な状態の特徴と病的変化を理解し、それを自ら解説できるようになる。そして歯科の2大疾患である齲蝕症と歯周病を中心に、歯科疾患の病因に基づく予防と、健康の保持・増進の科学的方法論の基本を身につける。
予防歯科学各論		○	◎	○		○	疫学を理解し、科学的根拠に基づいた歯科疾患の予防と口腔の健康増進の実践技法を説明できるようになる。集団を対象とした歯科疾患の予防(地域口腔保健/歯科公衆衛生)と個人を対象とした場合(予防歯科臨床)の共通点と相違点を理解する。
予防歯科学実習		○	◎	○	○	◎	予防歯科学および衛生公衆衛生学の講義で習得した知識について十分理解を深め、問題解決のために必要な能力と態度を養う。基礎的実習、示説演習、歯ブラシ工場見学実習などを行い、衛生学と予防歯科学の素養を深めるとともに、環境衛生や疫学についての基本的な技法を習得する。
保存修復学総論		○	◎		○	○	1)歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解する。2)それらの疾患を認識するための診査法を知り、正しい診断が行える能力を養う。3)各種の治療・予防法について、その方法の背景や意義、術式、術後経過についての知識を修得し、治療法の臨床的選択を理解する。4)歯科に特徴的な治療法、すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。
保存修復学各論		○	◎		○	○	1)歯に生じる各種の疾患の特徴と病態を把握し、その病因を理解する。2)それらの疾患を認識するための診査法を知り、正しい診断が行える能力を養う。3)各種の治療・予防法について、その方法の背景や意義、術式、術後経過についての知識を修得し、治療法の臨床的選択を理解する。4)歯科に特徴的な治療法、すなわち欠損歯質の回復のための修復技法と修復材料についての基本知識を修得する。
歯内治療学		○	◎	○	○	◎	歯髄疾患とそれに引き続く根尖病変の発症原因と病態を理解し、歯内および根尖病変の診査、診断、治療計画の立案と歯内療法についての基本的知識を修得する。
保存修復学実習		○	○		○	○	歯科保存学講義で履修した内容を、模型あるいは患者の口腔内を想定したマネキンを用いて実際に各種の保存修復処置および歯内療法を行い、臨床実習に進む前により理解を深め、治療技術を習得することを目的とする。
歯内治療学実習		○	○		◎	○	歯内治療における診査法や治療法に関して、実際に模型を使って実習を行うことにより、治療機器や器具の特性を理解すると共に、歯内療法の基本的な術式を修得する。
歯周治療学総論		○	◎	○	○	◎	歯周病の発症原因と病態や病状の進行や治療過程における生体の応答機構を理解し、歯周病の種類、診断、治療計画の立案、歯周基本治療や治療機構についての基本的知識を修得する。
歯周治療学各論		○	◎	○	○	◎	歯周治療における歯周外科治療、歯周病のメンテナンスの位置づけとその概要、さらに全身疾患との関連についての基本的知識を修得する。
歯周治療学実習		○	○		◎	○	歯周治療における診査法、歯周基本治療や歯周外科治療に関して、実際に模型を使って実習を行うことにより、治療器具の特性を理解すると共に、歯周治療の基本的な術式を修得する。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
無歯顎補綴治療学		○	○	○	◎	◎	歯列の全部欠損に対する補綴修復の意義と方法、高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴および口腔健康管理の重要性を理解する。
部分歯列補綴治療学		○	○	○	◎	◎	歯列の一部欠損に対する補綴修復の意義と方法、高齢者の身体的、精神的及び心理的特徴および口腔健康管理の重要性を理解する。
無歯顎補綴治療学実習		○	○	○	◎	◎	講義で得た知識をもとに、全部床義歯および部分床義歯製作の基本的な手技を修得する。
部分歯列補綴治療学実習		○	○	○	◎	◎	講義で得た知識をもとに、全部床義歯および部分床義歯製作の基本的な手技を修得する。
クラウンブリッジ補綴学		○	◎	○	○	○	冠橋義歯による補綴治療に必要な基礎的な知識と術理について学習することにより、歯科医師として必要な能力の習得を目指す
顎口腔機能再建学		○	◎	○	○	○	冠橋義歯による補綴治療に必要な臨床的な知識と術理について学習することにより、歯科医師として必要な能力の習得を目指す
クラウン補綴学実習		○	○	○	◎	○	冠橋義歯による補綴治療に必要な知識と術理を実践することによって、歯科医師として必要な技能の習得を目指す
ブリッジ補綴学実習		○	○	○	◎	○	冠橋義歯による補綴治療に必要な知識と術理を実践することによって、歯科医師として必要な技能の習得を目指す
口腔内科総論		○	◎	○	◎	◎	超高齢社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。
口腔内科各論1		○	◎	○	◎	◎	超高齢社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。
口腔内科各論2		○	◎	○	◎	◎	超高齢社会を迎え、様々な全身疾患や複雑な社会的背景を持つ患者が急速に増加している。本授業はこの様な現状に対応するための教育を担当する。すなわち、歯科医師が日常診療を行うために必要な基本的態度・技能・知識を養成することを目的とする。また、口腔に現れる様々な病変および疾患を全身との関連において診る能力と習慣を養うことも目的とする。
口腔外科総論		○	◎	○	◎	◎	口腔外科的処置に必要な滅菌・消毒の概念・基本的処置法を身につけ、口唇・口腔・顎・顔面領域の外傷、先天性・後天性異常の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。
口腔外科各論1		○	◎	○	◎	◎	口唇・口腔・顎・顔面領域の囊胞性疾患、腫瘍性疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。また、植皮などの再建外科についても修得する。
口腔外科各論2		○	◎	○	◎	◎	口唇・口腔・顎・顔面領域の囊胞性疾患、腫瘍性疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患の病態を理解し、診断並びに治療法を修得する。また、植皮などの再建外科についても修得する。
歯科矯正学総論		○	◎	○	◎	◎	歯科矯正治療における診査および診断を行う上で必要な知識[総論(歴史、成長と発育、咬合、不正咬合の原因)]と診断学(診査、検査、症例分析)]を修得させる
歯科矯正学各論		○	◎	○	◎	◎	歯科矯正治療における診査を行う上で必要な知識[治療学(矯正用材料と器具、固定、矯正治療に伴う生体反応、矯正治療における抜歯、矯正装置、不正咬合の治療、保定、不正咬合の予防)]を修得させる
歯科矯正学実習		○	◎	○	◎	◎	歯科矯正学講義で履修した矯正装置を自ら作製することで、装置の目的、特徴、効能に対する理解を深め、矯正装置の作製方法や技工の手技を習得させる
小児歯科学総論		○	◎	◎	◎	○	胎児から20歳前後までの健康児、障害児、有病児の身体的成長、精神的・心理的発達について理解し、健全な顎口腔を育成することの臨床的意義と方法を理解する。
小児歯科学各論		○	◎	◎	◎	○	胎児から20歳前後までの健康児、障害児、有病児の健全な顎口腔の育成について、その臨床的意義と方法を理解する。あわせて、障害者の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。さらに、小児歯科医療、障害者歯科医療における医療事故防止について理解する。
小児歯科学実習		○	◎	◎	◎	◎	単に技工物の制作方法を習得するのではなく、実習を通して、講義で得た基礎的な知識と臨床の場での実際の診断法と治療法とを関連づけて理解する。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー	主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
歯科放射線学総論		○	◎		◎	◎	歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用(画像形成理論を含む)について知識を修得する。
歯科放射線学各論		○	◎		◎	◎	歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用(放射線を用いた画像診断および治療を含む)について知識を修得する。
歯科放射線学実習		○	◎		◎	◎	歯科医師に必要な電離および非電離放射線の有効かつ安全な利用(放射線を用いた画像診断を含む)について基礎的知識、技能および態度を修得する。
歯科麻酔科学総論		○	◎	○	◎	◎	侵襲に対する生体反応の病態生理を理解し、関連する基礎医学的知識を習得する。生体の侵襲を制御し、生体を防御する方法を理解する。また局所麻酔法と精神鎮静法について説明できる。
歯科麻酔科学各論		○	◎	○	◎	◎	麻酔前の患者の全身状態を適切に評価し、説明できる。全身麻酔について麻酔薬や機器に関する知識を習得する。さらに、歯科治療中の安全管理と危機管理を理解し、救急処置を習得する。
医学細胞生物学・人類遺伝学		○	◎			◎	歯科学における遺伝学及び細胞生物学の基本的概念を習得する。基本的な遺伝子疾患および歯を含めた顎顔面領域に異常が生じる遺伝的疾患に関して理解する。
歯科英語1		○	○	◎		◎	歯科医師になるために必要な基礎用語、語源学、実用的な歯科英語に学生たちが慣れ親しませる。
歯科英語2		○	○	◎		◎	歯科医師になるために必要な基礎用語、語源学、実用的な歯科英語に学生たちが慣れ親しませる。
医の倫理と医療安全管理		○	◎		◎	◎	歯科医療および歯科学の研究における倫理の重要性を理解し、安心・安全の医療を提供するための基本的知識を身に付ける。EBMやNBIMなど生涯学習方法について身に付ける。
医療コミュニケーション		○	◎		◎	○	患者本位の医療を実践するためのコミュニケーション能力を身に付ける。
地域医療		○	◎		◎	○	国民の健康確保のための歯科学・歯科医療の仕組みについて、関連する保健・福祉・介護サービスの仕組みとともに、歯科医師としての関わり立場から学習する。あわせて、地域医療・地域貢献・チーム医療などの現状を理解し、今後のあり方について考える。
法学・災害歯科		○	◎		◎		法学とは、医学的説明、助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学であると定義されている。法学の意義を考えるとともに、災害時における歯科医療についても学ぶ。
老年歯科医学		○	○		○	○	高齢者の口腔管理、歯科治療、歯科関連リハビリテーションに必要な基礎的知識を学習する。
先進生体医工学		○	◎		○	◎	急速に高度化したデジタル技術や、材料と生体との相互作用を巧みに生かした革新的な材料などを活用した新しい診断と治療が実用化されつつある。その基盤となる物質科学、材料工学、医用工学について学ぶ。
口腔インプラント学		○	○		○	○	歯列欠損の補綴治療として確立したインプラント治療を行ううえで、必要な知識を修得することを目的とする。
高次口腔機能回復学実習		○	◎		○	○	高齢者の健康状態の把握と口腔管理、歯科治療、歯科関連リハビリテーションに必要な基礎的手技を習得する。インプラント治療に必須であるCT検査およびPCNシミュレートによる埋入設計、埋入術と補綴処置を実習を通して理解を深め、基本的な手技を習得する。
障害者歯科学		○	◎	○	○	○	心身に障害のある人の身体的、精神的および心理的特徴と歯科治療上の留意点を理解する。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

ディプロマ・ポリシー 科目名		主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
	統合臨床講義	○	◎	○	○	○	基礎歯科医学、隣接医学および臨床歯科医学の概要を、臨床実習を受ける前に各科目の知識を統合させ、実際の臨床の問題を解決できる能力を養う。さらに、基礎医学の必要性を自覚し、臨床歯科医学と隣接医学との関わりを説明し、歯科医学における基礎医学と隣接医学の重要性を理解する。
	研究基礎ゼミ	○	◎	○	◎	◎	研究基礎ゼミは、歯学科の研究室(診療室を含む)に学生が実際に出入りし、研究生活の一端を体験し、人的交流をはかること、このゼミを通じて、専門英語論文の読解力の向上、研究や臨床における問題点の提起あるいは問題解決能力の育成など、自ら考える力を身につける。
	歯科医学ゼミ	○	◎	◎	◎	◎	歯科医学ゼミは、歯学科の研究室に学生が実際に出入りしながら研究生活の一端を体験し、人的交流をはかることによって全人教育をめざすことを目的とする科目である。このゼミを通じて、専門英語論文の読解力の向上、研究や臨床における問題点の提起あるいは問題解決能力の育成など、自ら考えることのできる機会を学生に与えるとともに、将来研究者を目指す学生への動機付けの場となることを期待する。
	臨床示説	○	◎		◎	○	歯科臨床示説は、臨床研究室・診療科等の教員がそれぞれの専門分野の臨床症例を主にスライドなどで提示しながら、病歴・診断・治療・経過等について実践的な面から学習する。この講義を通じて、日々行っている臨床実習内容を实际的に把握するとともに、関連臨床知識の理解を深める。
	臨床実習1	○	○		◎	○	1) 臨床実習は、患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療を行うことで、医療人としての心を養うことができる。 2) 臨床実習は、歯科診療の実践を通じて、基礎系・臨床系を問わず座学で学んだ各々の教科(学問)を有益的に結びつけ、歯科医学をさらに深く理解することができる。 3) 臨床実習は、歯科診療に関わるあらゆる専門職の方々とともに患者に向き合うことによって、歯科医療の臨床体系を理解することができる。
	臨床実習2	○	○		◎	○	1) 臨床実習は、患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療を行うことで、医療人としての心を養うことができる。 2) 臨床実習は、歯科診療の実践を通じて、基礎系・臨床系を問わず座学で学んだ各々の教科(学問)を有益的に結びつけ、歯科医学をさらに深く理解することができる。 3) 臨床実習は、歯科診療に関わるあらゆる専門職の方々とともに患者に向き合うことによって、歯科医療の臨床体系を理解することができる。
	地域歯科医療実習	○	○		◎	◎	1) 地域医療実習は、患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療現場を見学することで、地域医療に貢献する医療人としての心を養うことができる。 2) 地域医療実習は、歯科診療の実践を通じて、基礎系・臨床系を問わず座学で学んだ各々の教科(学問)を有益的に結びつけ、歯科医学をさらに深く理解することができる。 3) 地域医療実習は、歯科診療に関わるあらゆる専門職の方々とともに患者に向き合うことによって、地域における歯科医療の臨床体系を理解することができる。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

ディプロマポリシー 科目名		主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
	血液・内分泌・神経	○	◎	○	○	◎	血液学、神経学、内分泌代謝学を総論と各論にわけて学び、基本的知識を修得する。
	消化器・循環器	○	◎	○	○	◎	消化器および循環器疾患は内科学のなかでも特に頻度の高い領域で、それらの基礎・臨床的な考え方や知識について学ぶ。また、消化器・循環器疾患のなかで歯科領域と強く関連した臨床的知識についても理解を深める。
	免疫・呼吸器	○	◎	○	○	◎	呼吸器病学、感染症学、膠原病学、アレルギー学について総論と各論を学び、これら疾患の基礎的知識を習得し、理解する。
	外科学1	○	◎	○	○	◎	外科学の基本的な疾患、特に消化器外科・小児外科領域、心血管外科領域、脳神経外科領域の疾患について理解する。
	外科学2	○	◎	○	○	◎	胸部・内分泌・腫瘍外科学(旧第2外科学)は専門分野として胸部外科、内分泌外科、消化器外科(食道)を受け持っている。よって、胸部、内分泌、消化器などの各臓器の解剖、生理機能、組織病理を講義するとともに臨床における診断治療(主に手術についても講義し、できるだけ歯学部の学生に興味のある内容を講義するよう努めている。
	隣接医学1(臨床検査医学)	○	◎			○	検体検査(一般検査、血液形態検査、止血凝固検査、生化学検査、免疫血清検査)の意義と実践、また、その測定値の読み方を学習する。
	隣接医学1(産科婦人科学)	○	◎			○	産科婦人科学は、妊娠、出産を学ぶ産科学と女性の内分泌動態や生殖器の腫瘍疾患等を学び、産科婦人科学の基本的知識を習得する。
	隣接医学1(小児科学)	○	◎			○	小児科学の全般を総論と各論に分けて小児の成長・発達及び小児疾患について学ぶ。小児の保健学と治療小児科学の知識を修得する。
	隣接医学2(耳鼻咽喉科学)	○	◎			○	耳鼻咽喉科・頭頸部外科対象領域の諸器官は、聴覚をはじめ多種類の感覚を成立させるとともに、言葉によるコミュニケーションを実現させるための場にもなっており、ヒトの生物学的および社会的存在のために大きな役割を演じている。こうした特性をふまえて、この領域における諸疾患の診断、治療ならびに予防についての知識を修得する。
	隣接医学2(皮膚科学)	○	◎			○	皮膚科学の総論と口腔粘膜病変を伴う皮膚疾患と皮膚感染症を学び、理解する。
	隣接医学2(泌尿器科学)	○	◎			○	泌尿器科学を総論と各論に分ける。総論においては、解剖・生理・症状・症候、泌尿器科的検査について学ぶ。各論においては、代表的疾患として、腫瘍、結石、感染、排尿障害をきたす疾患について学ぶ。泌尿器科に特異的な、尿路および男性生殖器の生理機能、疾患、検査法、治療法について理解する。
	隣接医学2(眼科学)	○	◎			○	眼科学の全般を、総論1回と各論3回に分け、総論は眼球および視覚路の解剖、生理機能および検査法について学ぶ。各論は、眼球を主体とした各組織の疾患について学ぶ。これらを通じ眼科学の知識、視覚の大切さを修得する。また、医療従事者として、知っておく必要がある伝染性眼疾患、視覚障害者の誘導法について学ぶ。

《歯学部 歯学科》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは○、関連するものは◎を記入する。

ディプロマポリシー 科目名		主要授業科目	【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習態度と創造的思考力】	科目の教育目標
			患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師に求められる世界水準の知識と技能を有し、地域社会のニーズに対応できる。	論理的な文章の記述や口頭での説明を、日本語のみならず英語でも可能とする。	歯科医師として好ましい態度・習慣、幅広い教養と倫理観を身につけ、患者及び他の医療従事者と適切な人間関係を確立する能力を有する。	医療に対して高い関心を持ち、自ら問題点を見出し、解決できる。	
	隣接医学3(整形外科)	○	◎			○	整形外科は、運動器を担当しており、分担範囲は、脊椎、骨髄、末梢神経、骨・関節、筋と多岐にわたっている。治療も保存的治療、外科的治療と広範囲に及ぶ。高いQOLが求められる現代生活において移動の自由を保障する運動器の健康は必須のものといえる。主として臓器別に、自ら経験するであろう身近な疾患を中心に学ぶ。
	隣接医学3(神経精神医学)	○	◎			○	精神疾患を持つ患者の診察に際して必要となる面接方法、精神症状の捉え方、各疾患の臨床像、治療、予後についての知識を習得する。
	隣接医学3(栄養学)	○	◎			○	栄養学は、食物とヒトの相互作用を研究する学問であり、大きく基礎栄養学、臨床栄養学及び公衆栄養学に分けることができる。栄養学のトピックスについて学ぶ。
	隣接医学3	○	◎		◎	○	医事法制は医事に関する法規や制度などを研究することによって、医療の完全実施を図ろうとするもので、医療関係者が法規や制度に対する認識を深めることにより、医療や看護の万全を期し、不慮の事故を未然に防止しようとするものである。歯学・医学本来の目的は、人類の健康を保持し、疾病の災厄を除去または軽減し、人類共存共栄の実をあげようとするにある。社会制度としていかにこれを取扱うかによって大きな影響を受ける。歯学・医学と法律制度との密接な関係をみることができ、法医学とは、医学的説明、助言を必要とする法律上の案件、事項について、科学的で公正な医学的判断を下すことによって、個人の基本的人権の擁護、社会の安全、福祉の維持に寄与することを目的とする医学であると定義されている。歯学・医学における法医学の意義を理解する。
	総合歯科学1	○	◎			◎	基礎歯科医学で学習したことを臨床歯学の基礎として統合し、理解する力を育成する。
	総合歯科学2	○	◎			◎	これまで授業等で学んできた知識をもう一度復習・整理して再確認するとともに、さらに、これらを統合して深め、実際の臨床実習に役立てることを目的とする。
	総合歯科学3	○	◎		◎	◎	テーマ：国家試験に向けて、特に臨床系科目について、その基本知識と臨床現場での問題点について、整理し、国家試験合格を目指す。
	口腔検査診断学	○	◎		◎		歯科治療における口腔検査の意義と実践、また、その測定値の読み方を教育する。さらに、その検査値を基にした診断を学ぶ。
	顎口腔機能治療学	○	◎		◎		高齢者の口腔管理、歯科治療、歯科関連リハビリテーションに必要な知識を学習する。
	歯科医療行動科学	○	◎	◎	◎		患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療を行うことで、医療人としての心を養うことができる。歯科診療における行動科学を学び、歯科医学をさらに深く理解し、歯科医療の臨床体系を理解することができる。
	社会医療政策学	○		◎	◎		歯科医療を含めた医療における倫理の重要性を理解し、安心・安全の医療を提供するための社会医療政策の基本的知識を身に付ける。
	実践歯科医療学演習	○		◎	◎	◎	患者の「人としての尊厳」を守りながら歯科診療を行い、医療人としての心を養うためのコミュニケーション能力を身につける。歯科診療に関わるあらゆる専門職の方々とともに患者に向き合うことによって、歯科医療の臨床体系を理解することができる。

・カリキュラム・チェックリストの作成：ディプロマ・ポリシーが各授業科目の目標とどのように関連づけられているかを確認する。